

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500014		
法人名	株式会社 マウントバード		
事業所名	グループホーム みどりの家		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町2-11-105		
自己評価作成日	平成30年11月12日	評価結果市町村受理日	平成31年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成30年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“みどりの家”の名の通り、緑豊かな環境の中で、その人がその人らしく尊厳を持ち日常生活を送れるような自立支援を実践出来るよう努め、“笑門来福”の理念を入居者様、ご家族、職員、皆で共感・共有出来るような支援を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の5つの基本理念に加え、職員全員で話し合ってホーム独自の理念「笑う門には福来る」をつくり、職員は笑いの絶えないホームを念頭に、日々理念の実践に努めている。法人もホームも職員の研修に積極的で、各種研修に参加を促している。今年度より24時間365日往診してもらえる体制が整い、看取りに備えている。「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を作成して利用者、家族等にもホームの考え方を明示し、説明している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑門来福」の理念を職員が共有し、利用者様一人一人の現有能力に応じた支援をし、その人らしく日々生活出来るよう実践している。	法人の5つの基本理念に加え、職員全員で話し合ってホーム独自の理念「笑う門には福来る」をつくった。職員は日々理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミだしや散歩・外出等で地域の方々と関わりを持つ際、職員が率先し挨拶を行っている。	町内会に加入しており、回覧板などから地域の情報を得ることができている。盆踊りに参加したり、ボランティアを受け入れるなど、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練や行事等を通じ、認知症への理解を深めて頂いたり支援の方法をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月ごとに開催している。行事報告、事故報告、研修報告、身体拘束防止委員会の報告を行い現在のサービスの取り組みや今後の取り組みについての意見交換や提言を頂き、サービス向上に努めている。	運営推進会議は、地域包括支援センター、薬局、家族などが参加して定期的開催している。会議では事故報告やヒヤリハットなども報告して意見をもらうようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	民生委員や地域包括センターの方に運営推進会議へ参加して頂き、連絡や相談を行っているが協力関係を築くよう努めている。	市町村窓口には毎月報告などで訪問している。また、地域包括支援センターは運営推進会議に参加してもらい、情報交換をしている。この他、行政主催の研修には積極的に参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度の身体拘束防止委員会を開催し、開催月にはフロア会議で報告し職員への周知を行っている。又、毎月の会議での話し合いを行い、日頃より身体拘束への意識を持ち身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	3か月ごとに「身体拘束防止委員会」を開催している。また、本部新人研修やホームのミーティングで「拘束をしないケア」への意識徹底を図っており、言葉遣いなどについてもその場で話し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でケア方法についての話し合いを行い実践している。関連の研修に参加した職員がフロア会議での報告を行っている。もし、不適切と思われる場合にはその時に改めるようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月のフロア会議で話し合いを行っている。関連研修に参加した職員が報告を行い周知に努めている。又、利用者様の権利を擁護出来るようなケアに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長や管理者が分かり易く十分な説明を行い、不安な点、疑問点を傾聴、回答し齟齬の無いよう努め、納得して頂いた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時の家族様来所時や、電話等があった際、適宜意見や要望を傾聴し、反映出来るよう努めている。	運営推進会議には家族が多数出席している。また、年2回家族会も開催しており、職員も参加して意見交換をしている。意見については反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や申し送りの場で、職員の意見や提案を聴き、意見交換を行い意見が反映されるように努めている。	フロア会議の他にも、申し送りノートなどで随時意見を出してもらっている。出された意見については反映に努めており、場合によっては本部に話を持っていくようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員と個別に話をする機会を設け、現状の把握や要望を傾聴し各々が向上心を持ち、やりがいを持ち働ける環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部外部問わず研修への参加や資格取得の為にスクーリングを推奨している。そこで得た知識や技術をフロア会議で報告し職員全体で実践に繋げることで、個々の成長と共に全体としての成長を促進するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会へ参加し、同業者の方々と交流をはかり質の向上に努めている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の関りの中で要望や不安を傾聴し、会議や申し送り等の場に対応を考え、安心して暮らせる様に関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話を入居決定前より傾聴し、話し合いをして提供するサービスについて考え説明し安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様双方の要望を取り入れながら必要な支援を考え提供し、又、適宜変更も出来るようご案内や説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様、職員が“共に支え合いながら共同生活を営んでいる”という意識を持ち、敬意を持ち接するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や病院受診等を可能な範囲でご家族にお願いしたり、好きなおやつを持ってきて頂き直接お渡し頂いたりする事で、利用者様とご家族の時間を大切に頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に友人や知人の方が来所されるような雰囲気づくりや、外出時に馴染みの場所へ寄ってみたりする事で、関係を継続出来るように努めている。	知人友人などが気軽に訪問できるような雰囲気をつくるようにしており、一緒に昼食を摂ってもらったり、居室で寛いでもらうなど訪問を歓迎している。中には友人の家に遊びに出かける人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より利用者様同士の会話や態度等を注視し、関係性を把握する事で座席の調整や職員が関りを持つ事により、それぞれが心地よい関係の中で暮らせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居等で退去が決定した後も、気軽にご家族様からの相談を受けたり支援が出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様それぞれの思いや希望の把握に努め、意向に沿った生活が送れるよう支援している。	入居時に利用者本人と家族の意向をよく聞き、入居後は、入浴の際などに本人の思いや意向を把握するよう努めている。家族からも情報をもらい、申し送りノートで職員全員で共有できるようにして、日々の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に作成したアセスメントシートやフェイスシート、ケアプラン等の書類を職員が閲覧可能な状態にしている。又、日々の関りの中で、生活習慣の情報を集め、会議や申し送りの場で報告し、職員間での情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録、日報や各記録表の記入、申し送りを通じそれぞれの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様の話を傾聴し、フロア会議の場で意見やアイデアを出し合い職員間で共有し介護計画を作成している。	利用者や家族の意向を踏まえ、フロア会議で話し合っ、介護計画を作成している。歩きたいという希望を介護計画に反映して、車いすから歩行器に変えて歩行訓練を始めた例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に変化や気づきを個別に記入し、職員間で情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に即したニーズの把握努め、職員間での意見交換やアイデアを出し合い、対応できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の消防署立ち合いの元で職員、入居者様も参加して防災訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が定期で往診に来ている。定期的に通院されている入居者様に連絡ノートをお持ち頂き、通院先の医療機関との連携を取っている。	今年度より24時間365日往診してもらえる体制が整った。週1回の看護師による状況確認、随時の訪問歯科診療などもある。専門医受診は家族対応を依頼しているが、場合によっては職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問する看護師に日々の健康状態を相談している。又、往診時の立会いもしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関との連絡やお見舞いの機会を作り、早期退院へ向けた環境をつくるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えるにあたり、希望や思いを入居者様、ご家族様、提携医療機関や看護師としっかり話をして方針を決め共有し、支援出来るように努めている。	入居時に「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」に沿って文書で説明し、意向を確認して同意を得ている。また、重度化してきた段階で、随時家族への説明、意向確認を行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急通報の手順や連絡先をわかり易くマニュアル化し、事務所内に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の消防署の立ち合いの元、防災訓練を行い、備蓄品の点検管理も怠らないよう努めている。	防火管理者を決め、消防署員立会いでの初期消火訓練や夜間想定避難訓練など年2回実施している。対応マニュアルを作成し、3日分の備蓄品の他、カセットコンロやらんたん等も準備する予定である。	来年度3ユニットとなるに際し、消防署立ち合いの訓練などには近隣住民にも声をかけて地域行事とすることで、さらなる地域連携を図ることができると思われる。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の人格や尊厳を守りながら関わりを持つように努めている。	一人ひとりのプライドやプライバシーの保護を大事にしており、研修でも学んでいる。食べこぼしが多い場合は、ひざにタオルを敷くなど、さりげなく支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で入居者様の思いや希望を示せるような関わりを意識し、生活の中で自己選択、自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人が、それぞれのペースで生活を送れるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様自身が選択した服を着て過ごして頂けるよう支援している。散髪時等もご本人の希望する髪型にして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員と一緒に食事の準備をしたり、お菓子作りをする等している。食後は食器洗いや後片付けも一緒に行っている。	食材業者から仕入れた食材で職員が調理しており、利用者も下ごしらえやテーブル拭きなどに参加している。時にはおやつのお白玉を一緒につくったり、外食に行くなど、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人一人の食事量や水分量を記録し、確認出来るようにして、一人一人の変化に気付けるようにしている。又、個別に刻み食やミキサー食等の対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様全員に口腔ケアを行って頂けるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の記録を排泄表に記入し、パターンの把握に努め、声掛けや誘導を行う事で排泄の自立へ向けた支援が出来るよう努めている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握したうえで、声かけ誘導している。状況に応じてパッドを使用するなどしながら、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様一人一人の排便状況を把握し、ゴミだしやレクリエーションでの運動や牛乳を提供する等の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を予定しているが、外出や受診、その時の気分等に応じて柔軟に対応し、入居者様それぞれの要望に沿えるよう努めている。	浴室は清潔で、週3回は入浴できるように支援している。リフトも準備しており、状況によって使用している。職員との会話など、入浴が楽しめるような支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人一人の生活習慣に合わせた休息がとれるよう努めている。又、照明の明るさや室温等を安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には職員2人で確認の後に服薬して頂いている。医師や看護師、薬剤師と相談の上、必要であればトロミ剤や食前に服薬して頂く支援も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に家事を行ったり、歌を唄う、手芸やDVDを視聴したりと、日常生活の中でそれぞれが楽しみを持ち、役割を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ゴミだしや散歩に出たり、行事での外出をする事で、戸外へ出る支援を行っている。	利用者は交代で近隣に散歩に出かけている。また、季節の花見やドライブなど、できる限り、外に出る機会をつくるようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣いをお預かりし、利用者様の希望やニーズに応じた品を購入し利用して頂いている。使用したお小遣いについては、ご家族にレシートをお渡しし、説明を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望時されれば、電話を掛けるよう支援している。又、ご家族からの電話を入居者様にお繋ぎし、通話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	金魚を水槽で飼育したり、季節に合わせた掲示物で季節を感じられるようにしている。	リビングは採光がよく明るい。共用空間は掃除が行き届き清潔で、ソファや畳のベンチを置いて好きなように寛ぐことができる。また、季節を感じるような配慮もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前にソファを置き、趣向に沿った番組やDVDを視聴して頂いたり、座席を調整する事で入居者様一人一人の居場所が出来るよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具等の物品を居室内で使用して頂く事で、居心地の良い居室になるよう努めている。	自宅から持参したテレビや椅子、仏壇等を置き、利用者が落ち着ける場所となっている。利用者が自分で掃除しやすいように家具を配置し、快適に過ごせるよう、居室担当者が整理整頓を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人一人のADLを職員が共有し、アイデアを出し合い、安全で自立した生活が送れるよう努めている。		